

ビンナガ 北太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



利用・用途

刺身や缶詰原料として利用される。

漁業の特徴

日本の竿釣り、流し網、日本と台湾のはえ縄及び米国とカナダのひき縄で漁獲されている。流し網やまき網でも漁獲されるが漁獲量は少ない。竿釣り及びひき縄漁業は北緯 25 ～ 45 度で夏～秋に行われ、未成魚（2 ～ 5 歳魚）を漁獲する。はえ縄漁業は北緯 25 度付近より北側では冬～春に未成魚及び親魚（6 歳魚以上）を、その南側では周年親魚のみを漁獲する。

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）
 全米熱帯まぐろ類委員会（IATTC）
 北太平洋まぐろ類国際科学委員会（ISC）

最近の動き

2014 年 4 月に ISC ビンナガ作業部会で資源評価が実施され、現状（2010 ～ 2012 年平均）の漁獲の強さは過剰ではなく、資源状態は乱獲ではないとされた。この結果は、同年 7 月の ISC 本会合で承認されたのち、8 月の WCPFC 科学委員会に報告された。2014 年 9 月の WCPFC 北小委員会において、漁業がないと仮定して推定した現在の資源量の 20% を下回らないよう漁業を管理していくこと等を含む管理枠組案が合意され、同年 12 月の年次会合で採択された。

漁業資源の動向

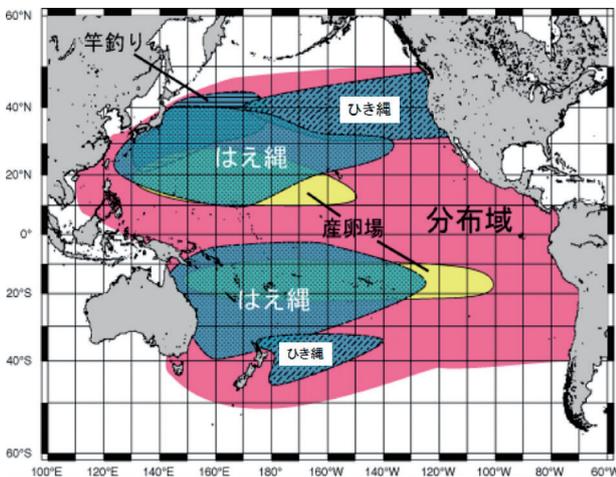
1950 ～ 1960 年代に約 5 ～ 9 万トンであったが 1970 年から増加し、1976 年に最大（12.7 万トン）となった。その後、漁獲量は減少し、1991 年には 3.7 万トンまで減少した。この減少は主として日本の竿釣り及び米国のひき縄の漁獲量の減少によるものであった。その後、著しい増加に転じ、1999 年には 11.9 万トンに達し、史上 2 位を記録した。その後は、減少したが、2009 年以降、増加傾向を示し、2013 年の漁獲量は 9.3 万トンでほぼ前年並みであった。

生物学的特性

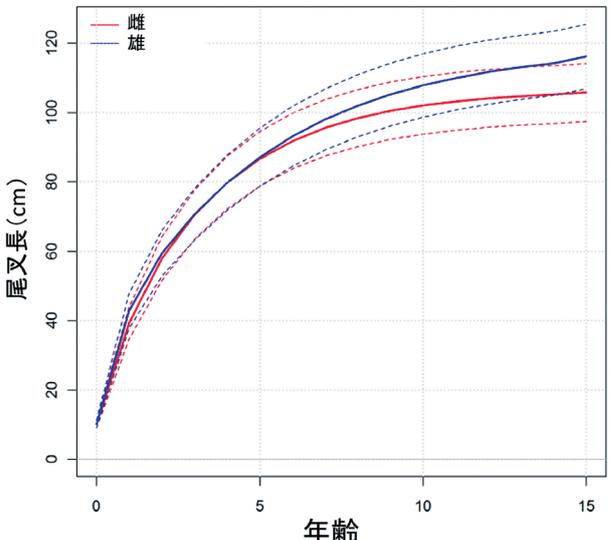
- 寿命：16 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳
- 産卵期・産卵場：4 ～ 6 月が盛期、台湾・ルソン島からハワイ諸島近海（水温 24℃以上の水域）
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

資源状態

2014 年の資源評価においては、現状（2010 ～ 2012 年平均）の漁獲の強さは過剰ではなく、資源状態は乱獲ではないとされた。



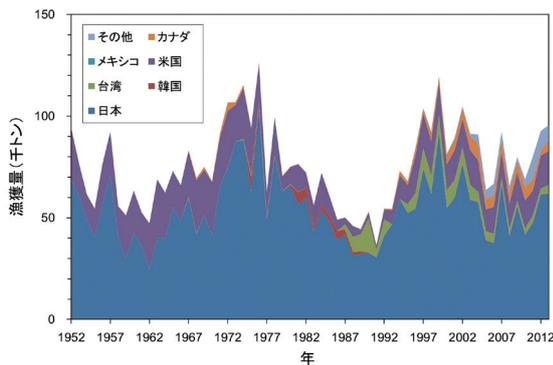
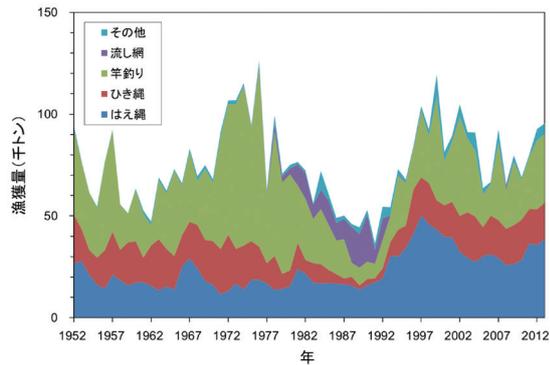
ビンナガの分布と主な漁場



北太平洋ビンナガの雌雄別の年齢と尾叉長の関係（ISC 2014）

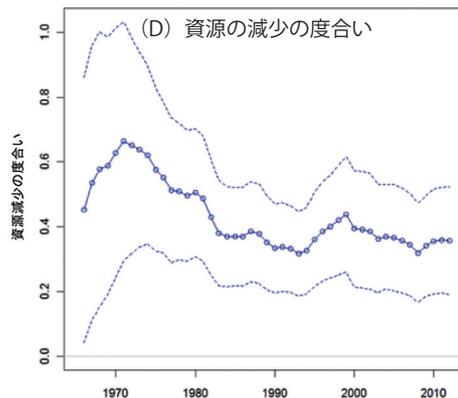
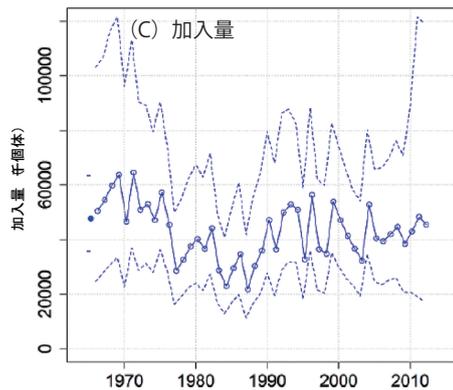
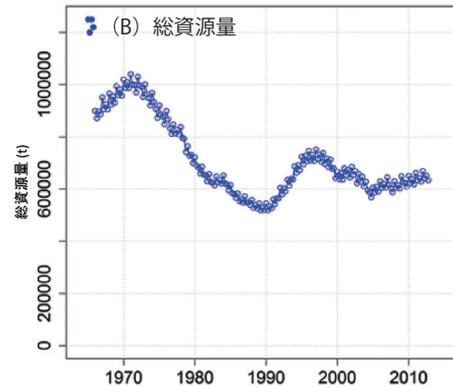
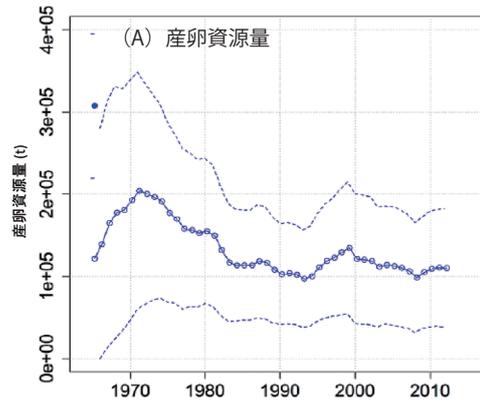
管理方策

- 漁獲努力量を現行水準未満に抑制 (WCPFC、2005 年)
- 漁業がないと仮定して推定した現在の資源量の 20% を下回らないよう漁業を管理 (WCPFC、2014 年)
- 漁獲努力量を現行水準未満に抑制 (IATTC、2005 年)



北太平洋ビンナガの漁法別漁獲量 (上図)、国別漁獲量 (下図)

ビンナガ (北太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.9 ~ 9.6 万トン 平均: 8.3 万トン (2009 ~ 2013 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	4.2 ~ 6.2 万トン 平均: 5.4 万トン (2009 ~ 2013 年)
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2017 年



北太平洋ビンナガの (A) 産卵資源量、(B) 総資源量、(C) 加入量、(D) 資源の減少の度合い (SSB/SSB₀) (ISC 2014)
点線はその推定値の 95% 信頼区間。総資源量は四半期単位、それ以外は年単位で示されている。